

[呼吸器外科]

[研修の目標]

呼吸器外科疾患に関する診断、治療の理論と実技を習得するとともに、広く呼吸器一般についても基礎的な知識と診療技術を経験し理解することを目標とする。

[研修指導医]

朝井克之（呼吸器外科部長）

日本胸部学会指導医・認定医、日本外科学会指導医・専門医、呼吸器外科専門医、日本がん治療認定医

[研修コース]

各科ローテートの一環として、一般臨床医に求められる呼吸器外科疾患の基本的な診察知識・手技を修得する2～3ヶ月程度の研修を予定しているが、希望に応じて研修期間を変更できる。

[研修指導体制]

病棟診療においては、指導医とともに個々の入院患者の主治医の一人として、その検査、手術、日常の治療処置、術前術後管理、病状経過の説明等の日常診療全般に関与し、診療技術と知識の習得を行う。外来診療については、必要に応じて、指導医とともに一部の外来診療を担当し、外来診療の実際を経験する。救急外来診療では、院内の救急日当直体制に参加することにより、院内当直医師ならびに指導医の指導下に救急外来診療の実際を経験する。また、必要に応じて、指導医に協力して学生の臨床実習指導を行う。

[研修内容および到達目標]

1. 研修すべき主な疾患

肺癌、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、肺結核、嚢胞性肺疾患、胸水貯留

2. 検査

画像診断：胸部単純、CT、MRI、シンチグラム、PET等について正常所見と基本的な異常所見を理解する。

気管支鏡：麻酔を含む前処置の実施、検査介助の実施、検査手技と正常ならびに異常所見の理解

呼吸器細胞診：良性・悪性所見の理解

3. 処置：胸腔穿刺、胸腔ドレナージの実施

手術：手術適応の決定と術式選択の理解、基本的手術手技の理解

術前・術後管理：呼吸器理学療法、全身疾患の評価と管理、術後呼吸器管理、胸腔ドレナージの管理と抜管実施